

令和6年度 第3回
東京都地域活動に関する検討会
速 記 録

令和7年3月5日（水）

新宿NSビル3階 3-J会議室

午後 1 時30分開会

○地域活動推進課長 皆様、お待たせいたしました。ただいまから東京都地域活動に関する検討会を開催いたします。

私は、事務局を務めさせていただきます東京都生活文化スポーツ局都民生活部地域活動推進課長の沼倉でございます。着座にて失礼させていただきます。よろしくお願いいたします。

本日の検討会ですが、お手元の資料 1 「東京都地域活動に関する検討会設置要綱」に基づき設置されておりまして、検討会設置要綱第 8 により、本検討会は公開とさせていただきます。御異論がなければ、検討会の議事録も公表させていただくことを御了承願います。

なお、昨年12月に開催いたしました本検討会の議事録につきましては、東京都のホームページに公表させていただいておりますので、御覧いただければと思います。

それでは、ここから検討会設置要綱第 5 第 2 項により、本検討会の座長を務めます生活文化スポーツ局都民生活部長の柏原が進行させていただきます。よろしくお願いいたします。

○座長 都民生活部長の柏原でございます。いつもお世話になっております。着座にて失礼します。

本日は、お忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

この会は、都が東京の抱えます様々な課題を解決するため、各町会自治会連合会の皆様方と行政区域を超えて都の行政課題や皆様方の取組を共有するとともに、意見交換などを行うことが重要であると考えまして、平成29年 3 月に設置をいたしましたものでございます。

本日も忌憚のない活発な意見交換をしていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、資料配付につきまして事務局から確認をさせていただきます。

○地域活動推進課長 それでは、本日お配りいたしました資料について確認させていただきます。

資料 1 は「東京都地域活動に関する検討会設置要綱」、資料 2 「東京都地域活動に関する検討会委員名簿」、資料 3 「座席表」、資料 4 「事前アンケート集計結果」の 4 点になります。過不足等がございます方は、恐縮ですが、挙手にてお知らせいただきますが、大丈夫でしょうか。ありがとうございます。

○座長 それでは、本日、資料 2 にございます委員の皆様方のうち、1 番の千代田区さん、

2番の中央区さん、8番の江東区さん、16番の豊島区さん、18番の荒川区さん、19番の板橋区さん、25番の立川市さん、31番の福生市さん、33番の多摩市さん、34番の稲城市さん、37番の奥多摩町さん、それから38番の新島村さん、以上13名の委員の方々が御欠席となっております。

それでは、本日の次第に入らせていただきます。

本日の議題ですが、「地域住民とのコミュニケーション・情報発信について」でございます。

地域住民の方へ町会・自治会の取組や催しにつきましてお知らせをする手段が、従来の掲示板、回覧板のほか、最近ではホームページやSNSなど多様化しておるところでございます。そこで、本日は、このように手段が多様化する中で、連合組織または加入されている町会・自治会の状況や取組例などについて意見交換をしていただければと思っております。

それでは、事務局からお願いします。

○地域活動推進課長 それでは、お手元に配付させていただきました「事前アンケート集計結果」に基づきまして御説明をさせていただきます。

このたび、検討会に向けまして、区市町村の町会自治会連合会の皆様、区市町村の職員の皆様にはアンケートに御協力いただきましてありがとうございました。こちらの集計結果に基づきまして御説明をさせていただきます。

まず2ページ目の「情報発信で活用している方法」についてでございますが、ほとんどの町会・自治会の連合会の中では、回覧板ですとか掲示板、また、ホームページをほとんどのところでは開設をされていらっしゃるというお話でございました。また、情報共有アプリ（電子回覧板等）を活用した情報発信などもやっっているところが13という御回答をいただいています。

それらに加えまして、その他の意見としましては、マイク放送ですとか、あと防災行政無線なども活用しながら放送をされていらっしゃるような事例もございました。

次のページをおめくりください。今調査に応じていただきました方法の中で、最も活用している方法、また一番反響が多い方法としましては、回覧板（紙）が一番多いという結果になりました。その次が紙の掲示板についてのものが最も活用されていて、最も反響が多いという御回答をいただいております。

4ページ目を御覧いただければと思います。先ほどの御回答の中でも、ホームページな

どを開設されていらっしゃるという御回答をいただきましたが、ホームページ・ブログに加えて、LINE、Facebook、X、Instagram、YouTubeなど、それぞれのSNSも御活用されて情報発信をやっていらっしゃるような連合組織、また、単一町会・自治会があるという御回答をいただいております。

次の5ページ目を御覧いただければと思います。こちらについては、情報発信に当たって工夫をしていることについて御回答いただいております。情報発信に関しては、頻度についてどうやっていくのかということも大事な要素ですので、その辺りも御回答いただいております。毎日のように発信を行っているところですか、あとはホームページですと月一、二回やっていらっしゃる場所、SNSも2週間に1回ですとか週に2回など、様々な頻度でやっていただいているようです。

この関係に関しては、北区さんから事例を御説明いただければと思っております。連合会でLINEの公式アカウントをお持ちだということで、その中で工夫をされていらっしゃるということについて御説明いただければと思います。よろしく願いいたします。

○北区 北区の下山です。よろしく願いいたします。

北区では、町会自治会連合会のLINE公式アカウントを開設し、町会・自治会向けに情報の発信を行っております。詳しいことにつきましては、事務局より説明をさせていただきます。

○北区 北区の事務局の藤本と申します。

北区の町会自治会連合会では、令和5年2月にLINE公式アカウントを開設して、町会・自治会に特化した情報の発信を行っています。配信内容は、東京都や区の助成金情報やイベント、セミナーの案内ですが、いずれは各町会・自治会のお祭りなどのイベント情報も配信したいと考えています。

配信に当たって工夫していることは、配信回数が多過ぎると受け取り手が煩わしくなったりブロックされてしまうという可能性がありますので、週1回、月4回程度としています。

以上です。

○地域活動推進課長 北区さん、ありがとうございました。今御説明があるとおり、LINEなどを使った発信についても、たくさんやってしまうと、逆に見る側の方にとって負担になって非常に煩雑になるというところで、逆に全然発信がないと、多分情報がないと感じられることもあります。発信の頻度についても、北区さんでは週1回程度、煩わしく感じないような回数にされていらっしゃるということは非常に参考になるかなと思っております。

ります。

紙の広報物に関しては年6回という御回答をいただいたりですとか、また、会報誌、お知らせ・案内チラシなど、その都度、紙での広報紙なども発行されていらっしゃるような地域などもあるという御回答をいただいております。

また、掲示物・回覧板に関しても、それについても定期的に配付をされたりですとか、月1回程度各自治会に御郵送するような工夫をされている自治会もあると聞いております。

結構回答が多かったのは、月1回程度回覧についてはやっていたりしゃったりとか、その資料の送付も月1ぐらいにやっていたりしゃるようなところが多いような御回答をいただいております。

また、イベントごとに情報発信をされているとか、また、町会ごとに様々だけれども、なかなか発信頻度というのはそこまで高くないですという御回答もいただいております。それぞれ連合会ですとか区市町村などいろいろ工夫をされていることはここから分かりました。

また頻度ではなくて、実際に内容の工夫についても御回答をいただいております。また、同じような内容でも繰り返し発信をしたりですとか、簡潔に分かりやすくするような工夫をされているとか、タイムリーで分かりやすい内容をやるとか、皆さん御回答が多いことは、分かりやすくということを結構意識をして発信されたりですとか、そういうことをやっていたりしゃるような御回答をいただいております。

その中で、若い世代に興味を引くようなデザインなどのチラシを作って発信しましたという御回答もいただいております。本件は新宿区から御回答をいただいておりますが、詳細について、連合会の方に御説明いただければと思いますので、お願いいたします。

○新宿区 新宿区事務局の番場と申します。

皆様のお手元にピンク色のパンフレットを配らせていただいていると思いますが、こちらについてです。デザイン面ということですが、基本的には若い人たちに訴求するということで、ピンク色の目立つデザインを採用したり、あと中を見ていただくと、若い方のインタビューの回答を載せていたり、また、あとはQRコードを載せて、新宿区の町会のPRのホームページにつながるようにしていたりということ、基本的には若い方をターゲットに見やすく作っているというふうに工夫をしております。

簡単ですが、以上です。

○地域活動推進課長 ありがとうございます。実際手に取ってみると、恐らく各町自連とか区市町村でも、このような町会・自治会の加入を呼びかけるようなチラシやリーフレットを多分作成されていらっしゃって、非常に工夫されていらっしゃるところだと思うんですけども、今新宿区さんがお話しされたように、若い方のインタビューとか、若い方が活動に参加されていらっしゃるような写真などを多用することで、自分たちにも身近に感じていただくような工夫をされていらっしゃるといことが非常に特徴的かなと思いました。

また、最近では、QRコードをリーフレットなどにつけていらっしゃるケースが増えていて、そこをスマートフォンなどで読み取っていただくと、ホームページなどに飛べるような形で、詳細についてはホームページを御覧くださいと促すような取組をやっていらっしゃるような区市町村さんも増えていらっしゃるなと思っております。実際の実物を見ると、面白いとか、こういうものを使ってリーフレットなどを作ってみるといいかなと参考になると思いますので、ぜひ持ち帰っていただいて御覧いただければと思います。新宿区さん、ありがとうございます。

7ページをまた御覧いただければと思います。実際に御説明をいただいたのが、発信の内容ですとか頻度の工夫ですけども、その中に、複数の媒体を活用して情報発信を行うということで、紙だけではなくて、SNSやホームページの媒体なども複数使ったりですとか、デジタルを活用した情報発信のためにSNSの構築や運用などもやるということですとか、また、天候などによるイベントの変更があります。そういうものについてはSNSなどを通じてリアルタイムの情報なども発信をされていらっしゃるような中身がありました。

あと結構大事なのが、回覧物がぬれないように袋に入れて回していらっしゃる。多分そこが、恐らくそのままですと雨のままポストとかに入れるとぬれてしまうようなケースがあるので、こういうような工夫をされていらっしゃるような自治会もあるというお話でした。多くありがとうございます。

次の8ページ目が「負担軽減の取組や読んでもらうための工夫」ということで、回覧板ですとか掲示板に関しては、実際掲示をする作業ですとか回覧をする作業について負担を感じていらっしゃるとか、結構大変というお声も聞いているので、その負担軽減の取組について今回アンケートに多くお答えいただきました。実際、掲示板に関しては、委託業者に委託しているような町会もあるというお話のほか、掲示期間は2週間程度と時期を絞っ

たりですとか、あとポスターのサイズを区のほうに統一するように要請をして、A3横長かA4縦長に統一されたということで、ばらばらだった掲示物に関してのサイズも統一したという取組があるとお聞きをしました。

また、月1回と決めて提出期限を設けているような例ですとか、あと先ほどの委託とも同じですけれども、掲示物の配付を委託するというをやっているところもところでした。

あとサイズの話も結構ほかでも出ていらっしゃるのと、あと回覧板で回しながら区のホームページでも掲載をされていて、今後は電子回覧板として、LINEなどでも読んでいただけるような形のものを検討されているようなお話がありました。

また、回覧板に関しても、2か月に1回とするとか、LINEで補足するとか、様々な工夫をされているということがありました。

今回の御回答の中で、最初の掲示板への掲示について、委託業者に委託して掲示している町会もあるという事例があるということで、あまりない事例かと思うんですが、品川区さんから、具体的に事例について御説明いただければと思います。お願いいたします。

○品川区 品川区事務局の亀田です。

町会の方々の高齢化が進んで、掲示物の掲示撤去には負担が生じている現状があります。町会によっては、シルバー人材センターに委託して、掲示物の掲示撤去を依頼しているところもあります。

以上です。

○地域活動推進課長 ありがとうございます。シルバー人材センターに委託をするということとかも含めて、どこに頼むのかということもあるのと、また、費用を町会の会費の中から捻出をして外に頼めるかどうかということも、いろいろ御検討の中ではあると思うので、事例としてそういう取組があるということが、町会の中でそういう掲示をする人手を出すことが難しいというときは、ある程度最後の手段として、外にお任せするということが1つあるのかなというのはありました。ありがとうございます。

続きまして、次の9ページを御覧いただければと思います。実際に読んでもらうための工夫をされていることはどうでしょうかというお話とかも回答をいただいております。

まず、デジタルの取組としましては、実際、写真や動画などもデジタルのものには掲載を多くして、読むだけではなくて見るという情報発信も意識をされているような

こともありました。

また、回覧板・掲示板と、LINE公式アカウント併用にした周知なども行って、幅広い年代で利用率が高いLINEの活用と、紙媒体のみで情報を得ている高齢者と、幅広い世代に対しての周知を行っていますという御回答もいただいております。

また、SNSなどの運営に当たっては、発信するコンテンツをシンプルに、先ほど分かりやすくということにもつながるかと思うんですけれども、そのようなことをやっていらっしゃるような取組もありました。

また、LINEで班長が独自にやっている班がありますという御回答もいただいております。

一方で、紙について読んでもらう工夫としましては、鮮度を重要視しているということで、なかなか余裕がなくて、掲示物を貼りっ放しになっているようなケースというのはまれにあるんですが、しっかりと定期的に、掲出期間を過ぎたものは貼り替えるような管理をして、情報の鮮度を保つような取組をやっていらっしゃるような区もあるとお聞きをしております。

また、先ほどの話のデジタルとも通じますけれども、写真やカットなど文字を少なくして、一目で情報が分かるようにしていますということですか、掲示物でもそうですが、遠くから目につきやすいようなタイトルを大きくしているような話とかあるかなと思っております。見やすさですとか分かりやすさみたいなものに工夫をされていらっしゃるような町会・自治会、連合会が多いなと感じております。

10ページ目は、若い人はインスタやSNSの情報を見られるけれども、年配者は従来からの掲示板、回覧板のほうが情報伝達が高いという御回答をいただいている、年齢層に従ってどのような情報発信手段をとるのかということ工夫されたり取り組まれていらっしゃるような連合会が多いなと感じております。

以上が情報発信の内容の工夫ですか、頻度の工夫というものとか、工夫されていらっしゃるようなことについてお伺いしておりますけれども、今御紹介させていただかなかった区や市とかで、こういうような工夫をしていますとか、実際こういう点を苦勞していますという御意見がもしあればお聞きしたいんですが、どちらかの区や市はございますでしょうか。

○文京区 文京区です。

調べたことはあるんですが、あまり正確でもないんですけれども、掲示板と回覧板で、

回覧板は随分少ないと考えていたんです。アンケートをとると、153町会あるんですけども、半分ぐらいまだ回覧をやっているんです。自分のところも昔はやっていたと思うんですけども、回覧の受取人がいないとたまっちゃって回らなくなっちゃうんです。最後に回ったときには、もう期日が終わっていたとか、そういうことがあったので、今は回覧板はなしで、お知らせすることは全部掲示板だということによってあります。

それと、掲示板、文京区に関して言えば、前は画びょうで留めていたんです。何年間か補助がありまして、掲示板を改修するのにお金を支給してくれたんです。それをやると、掲示板に戸がついているものですから、雨が降っても風が吹いても剥がれない。また、そうすると、貼るほうも楽なんです。磁石でぼんぼんと。画びょうでやると、掲示板1か所だったら別に大したことはないけれども、それが10か所ぐらいあると、A4だって1枚貼るのに画びょうが4個要るんです。それを10か所やるとなると結構大変になるものです。それをやったものだから、私は掲示板をいろいろ貼っていますけれども、能率が10倍ぐらい、磁石でぼんぼんと。雨が降って、翌日に風が吹くとみんな飛んじゃうんだけど、そういうことがなくなって、ずっと長い間掲示板に貼っていても、ずっと雨風に耐えて貼ったまま状態が生きている。非常に便利になった。そういうことでありがたいという感じがしている。

昔は、行政のほうで、各部署が何か知らせるとなると、A4のコピー用紙に、細かい字を書いているものをそのまま印刷して配って貼ってくれと来たものだから、町会のほうから苦情が出て、区長の耳に入ったんです。区長の一声で、減らせと。何でもかんでもやるなということで、行政からの大事なものとか必要なものは当然ありますけれども、大分減って、今各部署から、そこだけの話もなくなりました。非常に楽になりましたということです。

○地域活動推進課長 諸留会長、ありがとうございます。今お話しいただいた回覧板のメリット、デメリットの中で、回し切るまでにすごく時間がかかって、鮮度が落ちるといふか、イベントのお知らせとかが、もう終わっているタイミングで手元に来るみたいなの、そういうようなことがあるようなお話とかもお聞きをしているので、そこがじっくり手元で読めるというよさもありながら、回すのに当たって時間がかかってしまうというものがあるのかなと思います。

また、先ほども区の方とのやり取りの話もありましたけれども、掲示するに当たって、非常に細かい字だったりとか、読みやすさといふか、読み手を意識しないものの文字がた

くさんあるものというのは、多分見ていただくのは難しいということで、仕事柄、町会の掲示板を見るようにはなったんですけども、最近すごく文字が少なく、絵でよく分かる。うちもこの間、ヤミバイトみたいなものを見たときに、ビジュアルでばんと見えるようなものも最近増えてきているのかなと思っています。要は、貼っていただく側、逆に貼るのをお願いする側、双方にいろいろやっていく必要があるかなというのは、お話を聞いていて思いました。ありがとうございました。

そのほか、何か掲示をするに当たって工夫をされていることとか、取り組んでいらっしゃる事とかありますか。

○江戸川区 江戸川の関口です。

先ほどお伺いした掲示板が東京都で何か作って配付してくれるのか。うちのほうは、掲示板というのは自分のところで作るものだと思って、町会で作って掲示板を作るとか、地元の企業体、金融機関の寄附で掲示板を作っていたりするので、壊れちゃうと、また、区に言ったほうがいいのか、東京都で掲示板の助成をしてもらえるのか。

○地域活動推進課長 東京都から直接町会・自治会の掲示板についての補助メニューというのはないです。何か掲示板の修理とか新設のための補助というメニューは、今御用意はさせていただいていません。進んでいらっしゃるような区市さんではそのような設置の補助みたいなものもやっていらっしゃるようなこともあるとお聞きしていますけれども、全ての区や市でそういうメニューがあるわけではないようです。

○江戸川区 都では、掲示板の助成というのはないということですか。

○地域活動推進課長 ないです。

○江戸川区 確かにLINEとかそういうもので、ホームページや何かで見るとというのは、若い人たちはよく見るんですけども、高齢者の方は、まちを散歩しながら掲示板を見て、町会が今どういう行事をしているかということで注目をしているので、やはり掲示板が必要なんです。今江戸川区でも掲示板は、区では助成してくれていないと思うので、自分のところで作るか、地元の金融機関の寄附で賄うとかになっているので、東京都で掲示板というのは、元気出せ、地域社会づくりの一環の助成として考えていただければありがたいと思うんです。

○地域活動推進課長 現段階では、地域の底力助成事業については、何か施設の整備ですとか、物品を購入することを前面に補助をするメニューというのはないんですけども、情報発信は非常に大事だというお話もありますので、今後の宿題という形で考えさせてい

ただければと思います。すぐ何か補助ができますという御回答は、今日はなかなか難しいかなと思います。ほかの区や市の取組などの実態も確認しながらやればと思いますので、よろしくをお願いします。

○葛飾区 葛飾の秋本と申します。

葛飾区は、掲示板を設置する場合、1基につき7万円を限度に2分の1の助成があります。ただ、昨今は風雨による影響を鑑みて、扉付きのタイプを設置することが多いです。

扉付きは従来の掲示板と比べ、価格が高いので、7万円の上限をオーバーし、実質的には2分の1助成になっていない状況があります。区町連では、上限アップについて要望をしているところです。

ポスターを掲示板に貼る場合は、歩行者の注意を惹くことが大事です。

見やすさや字でアピールすることが必要で、目について、何かなと思って、近くに行って読まれて初めて効果が出るのです。

手に取って見る「ちらし」とは作り方が違うので、ただ今葛飾区が取り組んでいる自治町会連合会ポスターの作成でも、このようなことに配慮するようにしています。

○地域活動推進課長 ありがとうございます。実は、先月やった地域活動推進フォーラムというシンポジウムをここの場でも御紹介したんですが、そこでも掲示板の関係の意見が出て、たまたま中山エミリさんも御出演いただいたんです。中山さんが、御自身はマンションに住んでいらっしゃるって町会活動には参加されていないんだけど、掲示板があることによって、いろいろな地域の情報を知ることができて非常に有益だというお話とか、そういうことをやっていらっしゃる町会・自治会の活動はすごく大事ななというふうことをおっしゃっていて、そこは娘さんがいらっしゃるみたいで、たまたまその掲示板で祭礼のお知らせか何かを拝見したのか、地域に神社がちゃんとあるとか、そういうところがあって、七五三の場所をその掲示板を通じて知ったんですみたいな話をされていて、地域の情報を知るすごく有益な手段だということをお話しされていていらっしゃったんです。

なので、そういうことを今各町会・自治会の皆さんが、掲示板を通じて、行政の情報ですとか地域の情報を地域の住民の方に広く周知したり発信していただいている意義というのは、改めてその場でも確認はできました。ありがとうございます。

○大田区 大田区の鈴木です。

まず、回覧板は、世帯が共働きでほとんどいない時代、あるいはマンションがほとんどになっている時代において、回覧板というのはもうやめようじゃないかと言っているんで

すけれども、依然として回覧板じゃなきゃと。実際回覧板なんかは、1か月たって終わった頃に回っているのが実態です。ですから、回覧板にエネルギーを使うような、紙を使うような時代ではないだろうと。むしろ掲示板だというのは明らかでしょう。

掲示板といっても、今どきベニヤ板にべたべた貼るんじゃなくて、本当はデジタルサイネージの時代なので、30インチぐらいのテレビを1台、あそこに映し出すような、今時代はそういう時代だろうと思うんです。挑戦でいろいろやっているんですけれども、そういうサービス、機械を提供してほしいんです。デジタルサイネージがどうやったらできるのか。

それは業者とも組んで、屋外につけられるテレビがありますと。そこに情報を乗っけるのはこうやれば簡単にできますと。毎月、USBだったらUSBをぽんとつける。そういう技術革新の時代に、町会ではできないんです。これは、行政主導じゃないとできないと思うんです。もう掲示板だって、べたべた爪が痛い画びょうを貼っている時代じゃないんだらうと思います。

ちなみに、私は、掲示板のところは全部磁石のシートを貼って、コロナで余ったプラスチックの板、あれに帳番をつけて、簡単に磁石で貼りつけられるようにして、そんなふうな工夫をしてやっているところもあるんです。そんなことで、掲示板は行政主導というか、行政の力も入れて、そうすると、マーケット自体はこれだけあるんですから、デジタルが欲しいと言えれば幾らでも作れる。そういうことを開発していただきたいという願いがあります。

それから、手元に届けるという意味では、私のところなんかは、会報で全戸に配付、町会の会員だけではなくて、そこに住んでいる人にみんな必要な情報だろうと思うんです。だから、入っている人と、有料会員と無料会員みたいなものです。地域の全体の人に必要な情報は全部出そうと。そうすると、そこから入ってくれる人もいるので、今は入ってなくても入ってくれる人という意味では、全戸配付で出しています。

目を引いてもらう工夫としては、ワンサイドではなくて、インタラクティブになるように、クイズを入れたり、情報をクイズで出していく。防災のクイズだとか、そういうふうなことで対話式の情報を出す。あるいはQRコードをやってもらう。そのためにスマホ教室をやる。これを見るのは、スマホ教室に行くと簡単に見られると、その裏表を工夫しながら、情報の提供というのはやっていく。そうすると、逆にこれはどうなんだという反応も出てくるんです。その辺の工夫はいいんじゃないかと思います。

今日もいろいろなところの参考になる意見をいただいていますので、よかったなと思っています。ありがとうございます。

○地域活動推進課長 ありがとうございます。一方通行の情報発信だけではなくて、実際にクイズとかで反応が分かるような、そういう取組をやっていらっしゃるのはほかにも参考になるのかなと思いました。

あと最初のデジタルサイネージを今後どうしていくのかというお話についてですけれども、今うちのほうは、来年度、電子回覧板の支援ということで、手元にスマートフォンをということの御支援をするということで準備をしているんです。掲示板自体をデジタル化するというところをどうするのかという話も今いただいている、恐らくデジタルサイネージは、区役所や市役所の中の庁舎内にサイネージがあったりですとか、今、多分新宿の駅から歩いていらっしゃった方、駅の地下道のところ、動く歩道の脇にサイネージがあって、サイネージをうちのほうで設置させていただいているような例とかもあるんですけれども、それをどうやって今までの紙であったものをサイネージにしていくのかということは多分大きな課題だと思うんです。今までずっと紙を貼り続けていただいているのかどうか。サイネージみたいなものを一部そういうものに置き換えていくのかどうか。

デジタルサイネージは、実は私も設置をしたことが過去の仕事であるんですが、非常に多額だったりとか、電気代を含めて維持がかかるので、そこをどうやって町会・自治会としてコストが出せるのか。それとも行政としてコストを支援するのか。あと場合によっては、広告みたいなものを企業から取ってそういうものに充てるとか、多分いろいろなやり方があると思うので、そんなのを含めて、今後回覧板についてもうちちょっと支援したほうがいいんじゃないかという話もいただいたので、そこも含めて、これからまた皆さんとも意見交換をしながら考えていければと思っています。ありがとうございます。

○練馬区 練馬区に加藤でございます。

うちの場合は、掲示板ですけれども、練馬で1,000基あるんです。ということは、1,000基の掲示板に掲示するわけですが、A3で8枚貼れるような掲示板です。設置の助成は10万ぐらい出るので、残りは自分のところを出して、修繕は自分のところの掲示板は自分たちで直すんです。けれども、1,000基の掲示板に貼る掲示物は、貼る人のところに全部練馬区から送られるんです。送られて、受け取った人が全部貼る。担当に送る費用は練馬区が負担してくれているんです。だから、その掲示板に貼る。

掲示板には、町会のものも貼りますから、そのために掲示板の補修もあるので、たしか

1基3万3,000円の年間委託料が出るんです。掲示板に貼る部分はそういうところから掲示板を貼る人にお金を払ってやってもらっているということをしていました。区から来る掲示物は、掲示板のものは担当の人の所に来ますので、そっちで貼ってしまっている。

ただ、そうではないものもあるんですけれども、それは別としても、そういう方法をとってやると、貼る人が決まっていますから、月2回、初めと中間で来るから、全部貼るという方式です。もう一つ、私のところではやっていないんですが、今取り入れようとしている町会があるのは、掲示板に貼るQRコードを全部1本にして、掲示物を全部QRコードで取り込んで、それを町会の回覧で回しているんです。そうすると、掲示板と同じものがQRコードから見る事が出来ますので、スマホで見る人はずっと情報が取れるわけです。

今2点の方式をとってやっています。いずれは掲示板は要らなくなるだろうと言っているんですけれども、そんな方式を今取っています。

以上です。

○地域活動推進課長 ありがとうございます。今1,000基の掲示板に関して、担当の掲示板が決まっているというお話だったので、それが多分責任を持って貼っていただけということで、非常に面白い取組だなと思いました。

また、後でも御紹介がありますけれども、QRコードを活用して、どんどん電子のほうを見てもらうような取組もされていらっしゃるというお話でした。非常に参考になるお話をありがとうございました。

では、資料のほうに戻らせていただきまして、11ページを御覧いただければと思います。情報発信について、様々な住民の方からいろいろな感想ですとか意見みたいなものもいただいているということで、非常に好意的な感想みたいなものというのも寄せられていて、デジタルの回覧板だと速やかに情報を得ることができるとか、見直すことができると便利だとか、若い方では、ホームページを見た方が多いという形でうまく活用しているのかということとか、あと毎月の広報誌とかで町会活動は何をしているのかとか、どういう方向へ進もうとしているのかよく分かったという御意見をいただいているような話もありました。

また、町会以外の方からも、イベントの告知を掲示板で知ることができ参加できたというお話、先ほど有料会員、無料会員みたいなお話もありましたけれども、広く地域の方全般に様々なお知らせをいただいているのがそういう形なのかなと思っています。

課題・要望に関しては、回覧板を回す煩わしさから、特に若い方から、電子掲示板での

周知などが求められているケースですとか、回覧板担当者の高齢化、担い手の不足とか、掲示板の増設の要求や電子回覧板の導入などについてのお声があるという話もいただいております。

この辺り、板橋区さんからお話をいただいた中身なんですけど、御説明いただければと思います。お願いします。

○板橋区 板橋区の町会連合会事務局の久保田と申します。よろしく願いいたします。着座にて申し訳ございません。

町会・自治会の情報発信の主な方法といたしましては、今お話にも出ておりますように、回覧板と掲示板がございます。ただ、回覧板につきましては、若い方からは、回覧先の留守であるとか、回覧する時間帯に配慮が必要であったりするため、電子掲示板の導入が求められている一方で、掲示板につきましては、若い方から幼児、小中学校の保護者から高齢の方まで、通勤の途中であるとか、散歩の途中、買物の途中ということで目につきやすく、幅広い年代の方々から支持されているのは実態としてございます。

掲示板の課題といたしましては、盤面の物理的な面積が決まっているため、掲示物が限定的になってしまうことが挙げられているところではございますが、板橋区の場合、掲示物の決定につきましては、諸条件をクリアした抽選で決定をしているということでございます。現在若者の方の意見を組み入れるごとく、現在電子掲示板の導入も視野に入れて検討しているところでございます。

以上でございます。

○地域活動推進課長 ありがとうございます。実際に町会・自治会の掲示板を見ると、掲示物でびっしりになっていて、なかなか隙間がなかったりとか、余白がないみたいなお話というのは、多分見ていて感じていらっしゃる方も多いのかなと思っていまして、板橋区さんの場合は、抽選で掲示物に関しては、恐らく区役所、市役所のいろいろな部門の方から、こういうものを貼ってほしいとか、外部の機関からも依頼をいただく中で、公平性を期すために抽選などをやって選定されていらっしゃるようなお話でした。

また、若い世代の方からの御意見などを踏まえて、電子回覧板についても今後の取組として今御予定されているというお話もありました。ありがとうございます。

この課題・要望の中にもありますけれども、負担にどうやって取り組むかとか、特に意見の中でも、昨今働き方改革とか多様性というのが言われる中で、結構負担を強いてしまうことに対しての住民の方とか町会の会員の方からも厳しい御意見とかもあって、そこを

どうやって負担を減らしていくのかというのは1つ大きな課題になっているのかなと思いました。

では、次の13ページを御覧いただければと思います。13ページに関しては広報物の発行ということで、この後にやる東京都町会連合会の常任理事会でも時々各区市の広報物などもお出しただいて、こういうもので周知されていますというお話とかもされて、非常に参考になると思っています。実際31の連合会、区市の中では広報物を発行されていらっしゃるという御回答をいただいています。

その中では、頻度は非常にまちまちで、月に4回出しているところも1件ある一方で、月に1回ですとか、3か月、4か月、半年に1回、年に1回みたいな工夫をされながらやられているところもございました。

また14ページについては、それぞれ発行頻度の割合としてお示しすると、半数が年に1回か半年に1回という割合と、あとは3か月4か月、月に1回という多頻度という形で、ちょうど半分半分という形の結果になっておりました。

15ページを御覧いただければと思います。実際に紙の広報物などで発信している内容についてまとめたものが次のページの資料になります。実際の地域のお知らせや話題ですとか、連合会、町会、自治会の紹介、活動の紹介、また、イベントの案内、周知、開催の報告、また、会議の案内、報告、決算、事業報告、あと防災・防犯、最近非常に重要度は高まっております、そのような情報なども発信されているというようでした。

また、自治体や他団体からのお知らせですとか、あと自治体の助成制度、支援制度の紹介などもされているところがあるという御回答をいただいております。

また、エッセイやコラムですとか、あと訃報などを載せていらっしゃるようところですか、あと加入の案内もやられているところも幾つかの区市でそういう御回答もいただいております。

次の16ページを御覧いただければと思います。「広報物の発行についての工夫や課題」につきましては、まずデザインやレイアウトに工夫をされているという話をいただいております。手に取って読んでもらうような紙面にしていますというお話ですとか、また、文字を大きくして量を減らして写真を増やすみたいなことをやっていたりですとか、写真を多用しています、カラーにしているとか、見て分かりやすいようなものにするようなデザインやレイアウトを工夫されている区市が多いという印象を受けております。

また、内容の工夫についても、分かりやすく読みやすくということを非常に意識されていて、読者に飽きられないような工夫、あとネタを定期的に見直して更新する。どうい
ものを発信するのかということも非常にいろいろ検討しながら進めていらっしゃるんだと
いうことが分かりました。

また、ホームページやQRコードの活用もされていらっしゃるような区市もあるという
ことで、17ページを御覧いただければと思うんですけども、SNSやホームページ等の
QRコードの掲載を行ったりですとか、あとは紙の広報誌の発行に加えて、オンライン版
を発行していらっしゃるようなところもあるというお話をお聞きしました。

課題としましては、いろいろな編集スタッフを募集したりですとか、人材を集めたりで
すとか、あと逆に一方で、印刷も自前で行ったりとかいうようなことをやっていらっし
やるようなところもありました。読み手の興味を引く内容を心がけていて、SNSの普及に
よって動画が主流になっているけれども、若年層をどう取り込むのかということも課題と
して考えていらっしゃるとい御意見をいただきました。

これは、八王子市さんからいただいた意見なんですけれども、詳細を御説明いただけれ
ばと思います。お願いいたします。

○八王子市 私ども八王子市町会自治会連合会では、平成17年10月から昨年の10月までに、
約20年間にわたりまして、市民の皆様へ広報誌「町自連だより」を発行し、様々な情報を
提供してまいりました。発行では、多くの企業や事業者の御協力がありましたけれども、
特にここ数年、経費を含む発行が難しくなり、町自連での会議を通して、今後どうすべ
かを協議してまいりました。会議を踏まえまして、継続させるために工夫した点、課題な
どにつきましては、事務局から御報告させていただきます。

○八王子市 八王子市町会自治会連合会事務局、西田です。着座にて御報告させていた
きます。

私たち町自連では、年に4回、1号あたり12万5,000部を発行して、全域戸別へ配付し
たほか、行政機関などの窓口において情報を提供してまいりました。この20年間に、読み
手の方法、媒体、紙から携帯とかタブレットとか、だんだん情報の入手の方法が変わっ
てきたことから紙を手にとって読んでもらえる機会が少なくなってきました。

また、興味を引く記事をどう扱うか、誰が誰に何をどう伝えるべきか、ここら辺はもう
一度見直しをして、できるだけ一つでも多く町会・自治会の面白みとか、町会の持つ
魅力伝えていこうということで、ここ数年は内容を変えながら取り組んでまいりまし

たが、コロナ以降については、経費的な面を含めて、なかなか発行が厳しくなってきたという現状を踏まえ、この2月からウェブ版に切り換えて、若い層の世代の方にも、面白いという記事をリアルに取っていただけるようにしていこうということで、試行的に変えてきました。

特に、紙で発行していたときに反響が大きかった病気に関すること、医療機関の先生からのアドバイスに一番反響が大きく、こういう先生からの動画を通じて情報を提供いただけるような運びになってまいりましたので、現在、皆さんが興味を引くであろうという4つの項目に切り換えて、順次内容を盛り込みながら発信していこうというふうに今工夫をしているところです。

しかし、切り換えたことで、紙がなくなって残念だという御高齢者からの声もいただいているのが現状でもあります。非常に悩みましたが、課題としては、携帯とかタブレットでなかなか対応し切れない世代の方たちについて、どのように興味を持って、生き生きと生活していただける一翼を担えるかというところがこれからの課題になってくるかと思っています。

報告は以上です。

○地域活動推進課長 八王子市さん、ありがとうございます。広報物を発行されている区市の皆さん、多分同じ共通の課題を抱えていらっしゃるんじゃないかなと思います。紙を発行して配るに当たっても非常にコストがあつたりですとか、最近はスマートフォンやパソコンなどで手軽に情報やホームページに触れる方が増えてきているので、ずっと紙の発行を続けていいのかどうかといろいろなお話をされていて、非常に悩みながらウェブ版のほうに移行して、見てもらえるような編集ですとか、中身を工夫されていらっしゃるようなお話でした。御意見ありがとうございます。

続きまして、こちらのものに戻らせていただきまして、18ページを御覧いただければと思います。今回アンケートの中でお聞きしたのは、電子回覧板の導入について、検討状況ですとかをお聞きしました。導入していないというのが24件で、導入しているのが12件という御回答をいただいて、不明が2件という御回答をいただいております。

実際に導入をされていらっしゃるような意見としましては、会員の方に情報を行きやすくすることを目的として、試験運用の末、会として導入した。紙だと手元に残らないけれども、電子回覧板は見返せることなどから好評を得ているというお話でした。

これは、狛江市さんからいただいた意見なんですが、詳細を御説明いただければと思い

ます。お願いいたします。

○狛江市 狛江市の佐藤です。

狛江市では、電子回覧板を導入している町会が二、三町会ございます。狛江市の町会数というのは35町会ですので、市全体の約1割程度です。

あと詳細につきましては、事務局が来ていますので、事務局より説明をいたします。

○狛江市 狛江市の事務局の高橋と申します。着座にて失礼いたします。

導入した町会さんからお話を伺いますと、回覧板で町会のイベントの周知を行っても参加率が低かったことから、紙で回す回覧板では、イベントの実施前に情報が行き渡っていないのではないかという懸念から、無料で利用できる範囲での電子回覧板の導入を決めたということを伺っております。導入に際しては、都の講師おまかせスマホ教室を活用しての会員向けのスマホ講座を開催し、高齢者の方へのサポートにも力を入れていらっしゃるということです。

電子回覧板のメリットとして、紙で回ってくる回覧板と違って、後で自分のタイミングでもスマートフォン上で見返せるというのが好評だということで伺っております。

ただ一方で、高齢の方などからは、まちなかの掲示板であるとか、手元に届く回覧板がありがたいという声も聞こえているということから、デジタル化は便利ですが、しばらくの間は紙とデジタルの両方の併用、ハイブリッド方式が必要だと考えていらっしゃるということをお伺いしております。

以上でございます。

○地域活動推進課長 御説明ありがとうございました。実際に反響としては、手元に残るとか見返せるという若い世代の方からそういうような好意的な感想があったというお話でした。一方で、高齢者の世代の方から、回覧板とか掲示板について引き続きやってほしいというお声もあったということで、どちらか一方に寄せるとかというのは、もしやるにしてもなかなか難しく、しばらくの間ハイブリッドみたいな形でやることは必要なのかなと、お聞きしてそのような感想を持ちました。

今回導入されたところのいろいろなメリットですとか、好意的な感想が寄せられた一方で、導入していない理由としては、ITリテラシーがない方がいるのでなかなか難しいとか、負担のほうが大きような感じがあるとか、デジタルに詳しい人がいないというお話もいただいています。また、コストに対してのクリアが難しいとか、なかなか必要性が把握できていないですというお話とかもいただいております。

来年度、東京都では、電子回覧板ですとかキャッシュレス決済の支援とかをさせていただくんですけども、実際試していただいて、やってみるとよかったと思っていただくのか、試してみたけれども、なかなかそこまで効率化につながらなかったというふうなことも率直にあると思いますので、こちらのほうで利用料の支援などもさせていただくので、ぜひよろしければ、また来年度やります自治体支援なども活用いただければと思っております。

今回情報発信について様々な取組などもお話をお伺いしましたけれども、全体を通してですとか、今の電子回覧板を通して、何か御発言とか、今こういうことをやっていますという取組があればお話をお聞きしたいんですが、どなたか御意見とかいらっしゃいますか。
○昭島市 昭島市の高橋と申します。

まず、デジタル化というのは、こういう会議だって集まらなくてもいいのではないか。ウェブにするなり何にするなり、デジタル化をもうちょっと取り入れてから進めていかないとなかなか難しい。我々のところは高齢者が多い。逆に言うと、自治会というよりも老人会に近い体制になっており、若い人がいくら見てくれても会員ではない。ますます加入率は減る。

その辺を東京都がしっかり補助金で自治会費は補填しますという、そういうところがあればこういうものもやってみてもいいという話にはなるけれども、手間暇かけて、会員は減ったではやりきれない。回覧を回すのが面倒くさいと言うけれども、安否確認だと思って私はやっている。もしかすると倒れているかもしれない。そういう隣近所の付き合いというのもなくして、自治会を大事にしましょうというのはやや無理があるのかな。その辺も考えた上での策をぜひ練っていただきたい。

以上です。

○地域活動推進課長 ありがとうございます。12月にやった町会費の徴収の議論の中でも、町会費を取りに行くこと自体が安否確認になったりとか、その方につながっているというお話もいただいていたので、今後のデジタルに全部移行すること自体が非常にいいことではないというお話もいただいていた。

あとコロナ禍の中で、実は都町連の会議自体をオンラインでやった過去があるという話をしていて、小池知事が、町会の連合会の会議がオンラインだったということで、知事も一部参加されたようなんですが、すごく印象に残っていらっしゃったようで、我々のほうは、この会議をオンラインでやるということは今後考えていってもいいのかなと思うんで

す。いろいろな様々な場所からここまで参集いただいていますので、その負担が減る意味では、オンラインという部分も今後考えていくということも必要なのかなと思うのです。

一方で、こうやって顔を見合せながら、安否確認でないですけども、お話しするということも意味合いもあると思うので、そこは、年3回、こういう地域活動に関する検討会をやっておりますので、そこは今後、場合によってはオンラインも併用するとか、オンラインでの参加も認めるようなことも今後検討していきたいと思っております。ありがとうございます。

○昭島市 面倒くさいことは嫌だからとなってくると、自治会離れにつながる。電子回覧板等で近所づきあいが希薄になることで、会員数が減っていく。加入率が減る。だから、ある程度大変でもやっていく。逆に言うと、防災だ何だと大変な部分もあるが、それを行っている自治会をもうちょっと盛り上げていただきたい。何でもかんでもデジタルだ、楽になればいいやと。デジタル化により会員数が増えるなら、それでもいいと思うが、それによってつながりが希薄になり、会員数が減る可能性があるということの危機感がないというのが私はちょっと不安だなと思った。

○地域活動推進課長 ありがとうございます。実際に活動に関しての負担感が強いというお話もいただいている、その1つの解決策としてデジタルということは、今うちのほうで、来年度いろいろな支援をさせていただく理由にはなっていないんですけども、ただ、一方で、会長がおっしゃるとおり、面倒くさくても社会的意義があったりとか、地域にとって大事だからやっていただいている活動は結構あると思うんです。

そこは非常に大事だから、ちょっと大変だけれども、例えば夜間の見守りをやっていたりですとか、防災訓練なども、結構負担もありながらも、それでも地域の防災のために必要だからやっていただいているという意義もあると思いますので、その負担をどうやって見ていくのか。それでもやるべきことはやっていただくというのは、支援をどうやって都としてやっていくのかということは今後の課題かと思っておりますので、ぜひまた、このような場を通じてですとか、その中の場も含めて意見をいただきながら考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

そのほか何か御意見とかはございますか。

では、以上でこのアンケートの結果については終了とさせていただきます。ありがとうございました。

○座長 それでは、そろそろお時間になりましたので、本日のまとめをさせていただけれ

ばと思います。

皆様、本日は、各地域の日々のお取組に基づく活発な御発言をどうもありがとうございました。

まず、情報発信につきましては、デザインですとか、あるいは文字の大きさですとか、色ですとか、そういったことについて非常に工夫をされているということがうかがえたところでございます。

そして、今もございましたが、発信の手段として、回覧板、掲示板という昔からやっている方法ではありますが、現在でも意味がある部分が非常にあるということは確認できたところですし、私も日々自分の家の近所でも掲示板を毎日見ていまして、地域の人、会員だろうがなかろうが、そこに貼られているいろいろな情報を目にすることができるという意味で、掲示板というのは非常に大きな意味を持っているというふうなことは私も感じているところですし、皆様のお話からも感じられたところです。

また、回覧板についても、今安否確認の話もありましたが、こういった世の中で、それぞれの人の顔を見るということは大事だという部分もあると思います。

一方で、手間が多いとか、非常に大変だという話もあって、私も掲示板に画びょうで貼って歩くことは、町会の仕事で時々やっているんですけども、あれは非常に大変だというのは私自身もよく分かっていますので、今そういったことをやるのがどうなのかという議論があるということも分かるところでございます。

一方、電子回覧板あるいはデジタルサイネージという新しい技術を用いたそういった情報発信の手段、こちらも若い人を中心に、恐らく訴求するだろうというふうには考えておるところですが、一方で、費用ですとか、あるいはノウハウの問題ですとか、そういった部分でまだまだ課題もあるかと思っております。当面はいろいろな手段を混ぜながらというか、いろいろなものを使いながら発信していくのが大事なのではないかと私自身も感じたところでございます。

引き続き皆様方と連携しながら施策を進めてまいりたいと思いますし、今日も幾つか御提案とか御宿題をいただいたところですので、今後の参考に大いにさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上で私のまとめを終わらせていただきまして、最後に、吉成副座長からの本日の感想をよろしく願いいたします。

○副座長 副座長を務めております吉成でございます。

今日は、地域活動に関する検討会に御参加いただきまして、地域住民とのコミュニケーション、情報発信についてのお話をいただきありがとうございました。

皆様のお話を聞いておりますと、発信作業に伴う負担の軽減や、多くの方に見ていただく、知っていただくための工夫も様々あることがよく分かりました。皆様の日々の御尽力に感心いたします。本日紹介された事例やアンケート結果は、地域への情報発信をよりよいものにしていくためのヒントとなることと考えております。これからの活動の参考にさせていただければと思います。

今日は、お疲れさまでした。

○座長 吉成副座長、ありがとうございました。

これをもちまして、本日の議事は終了させていただきます。

皆様の御協力によりまして、滞りなく会を運営できました。誠にありがとうございました。

また、次回の地域活動に関する検討会の開催につきましては、現時点では日程は未定でございますが、決まり次第御連絡をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

午後 2 時32分閉会